

美術科 学習指導案

横浜国立大学教育学部附属横浜中学校 谷田 恵実

1 対象・日時 2年B組 令和8年1月24日(土) 1校時

2 本題材で育成したい資質・能力(評価規準)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①形や色彩、材料の特性、質感、大きさ、量感などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴、技法などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。	①日本の漆の作品や受け継がれてきた表現の特質などから、漆のよさや美しさを感じ取り、愛情を深めるとともに、美術文化の継承と創造などについて考えるなど、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	①美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に美術作品や美術文化などの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

3 題材「漆うるわし 漆の魅力」について

漆は古くから東アジアや日本などで活用されている伝統的な材料である。特に日本の漆は、Japanese lacquerやUrushiと英訳されるほど世界的にも価値がある素材である。また、日本においては、高温多湿の気候や木材資源の豊富さなどの自然環境の条件が漆を使った製品の製造に適していたことなどから、輪島塗・津軽塗・山中塗・鎌倉彫など、日本各地の産業として地域ごとに異なる工芸文化を育んでいる。

本題材では、漆の特性や制作の技法、直しながら大切に使われ、受け継がれていることなどについて学習する活動を通して、日本の伝統的な文化に触れ、漆のよさや美しさを感じ取り、美術や美術文化の継承と創造について考えを深める学習を行う。授業では、生徒が考えを深めるための軸となる概念として「ものの価値」を、題材を通して考えるポイントとして示す。クラスや学年の様々な意見を参考して多様な価値観に触れながら、生徒自身が自分の価値観を客観的にとらえ直し、よさや美しさを豊かに感じ取る見方や感じ方を深めることで、日常の様々なもののよさを感じ取る力を培っていくことをねらいとする。題材のまとめでは、自分の価値観の変容を実感し、美術の学びが自分自身の生活をより豊かなものにすることに気付き、美術を学ぶ意義や価値を見いだすことにつなげていきたい。授業の第1時では、多くの家庭に流通しているプラスチックや陶器などの作品と漆の作品を比較しながら鑑賞し、造形的な視点を働かせて漆の魅力を考える学習を行う。ここでは、比較して感じたことを言葉で整理しながら考え、自分がどのような価値基準をもってよさや美しさを感じているかを捉えさせる。第2時からは、漆の歴史や材料の特性、表現の特性、基本的な制作の工程などを学び、「ものの見方」について考えを深めていく。教師が設定した問い合わせ合いながら、それぞれの意見をクラウド上で共有することで、多様な感じ方や新たな視点から考えさせたい。第3時では、「ものの見方」について自分たちが考えたことを整理し、漆の新たな生かし方について班で案を出しながら、よさや美しさを改めて考える活動を行う。漆の魅力は値段や希少性ではなく、作品自体のもつよさや美しさであることなど、見方や感じ方が深まるようにする。

4 生徒の学びの履歴

1年生から鑑賞の学習を継続して行ってきたことで、生徒は作品を楽しみながら鑑賞するとともに、作品のよさや美しさ、表現の工夫などに留まらず、歴史や文化的背景、他教科の学びなどに目を向けて考える力を身に付けてきた。一方で、作品制作において主題を考える場面では、自身の経験や日常生活の中からよいもの、美しいもの、興味のあることを見いだすことに課題が見られる。生徒の生活の中には、身の回りのものを立ち止まって見つめ、美しさを感じる時間や心の余裕が十分に確保されていない様子もうかがえる。本題材では、美術の学びを生徒自身の生活と結び付けて考えることのできる題材を設定し、日常にある美しさに気付き、実感を伴いながら豊かな語彙で感じたことを表現しながら学びを深めることで、美術の学びを生活に生かすことにつなげていきたいと考える。

5 資質・能力育成のプロセス (3時間扱い、本時 は2時間目)

次	時	評価規準 (丸番号は、2の評価規準の番号)	【 】内は評価方法 及び Cと判断する状況への手立て
1	1	<p>知① 形や色彩、材料の特性、質感、大きさ、量感などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解している。 (○)</p> <p>思① 作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、見方や感じ方を深めている (○)</p>	<p>【行動の観察】 C：形や色彩、材料の特性、質感、大きさ、量感などの造形的な特徴などを基に、相違点や共通点を把握し、比較しながら鑑賞できるように促す。</p> <p>【行動の観察】 C：作品の形や色彩などの造形的な要素から、よさや美しさについて感じたり考えたりするように促す。</p>
	2	<p>思① 日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、造形的なよさや美しさを感じ取り、伝統や文化についての愛情を深めるとともに、美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めている (○)</p> <p>態① 主体的に美術作品や美術文化などの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 (○)</p>	<p>【行動の観察】 【ワークシートの記述の確認・分析】 C：漆器を触り、漆器のよさや美しさを味わいながらものの美しさや価値について自分なりに考えることができるよう促す。</p> <p>【行動の観察】 C：漆器の形や色彩などの造形的な要素から、見方や感じ方を深めるように促す。</p>
		<p>知① 形や色彩、材料の特性、質感、大きさ、量感などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴、技法などを基に、全体のイメージで捉え、漆の特性を生かした用途などについて理解している。 (○)</p> <p>態① 主体的に美術作品や美術文化などの見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 (○)</p>	<p>【ワークシートの記述の確認・分析】 C：他者の意見から漆のよさや美しさ、材料の特性などについて考え、活用した時の様子を考えて提案するように促す。</p> <p>【行動の観察】 【振り返りの記述の確認・分析】 C：他者の意見を聞き、漆のよさや美しさ、材料の特性などを整理して、漆器のよさや美しさについて考えるよう促す。</p>

主たる学習活動	指導上の留意点	時
<p>【題材を通して考えるポイント】 ものの見方</p> <p>① 異なる材料でつくられた作品を比較しながら鑑賞し、その中から気に入った・使ってみたい・価値がありそうなど、自分が惹かれたと感じたものを1つ選ぶ。</p> <p>② 自分が感じたよさや美しさなどをワークシートに言葉で整理しながら、選んだ理由をまとめる。</p> <p>③ 選んだ作品について説明する。 クラスで意見を共有し、それぞれがものよさや価値をどのように捉えようとしているか知る。</p> <p>④ 【題材を通して考えるポイント】を確認し、次の授業に向けて見通しをもつ。</p> <p>⑤ 漆や漆器の特性、大まかな歴史などについて学ぶ。 横浜芝山漆器の制作の過程を動画で鑑賞し、制作の過程などから漆芸の様々な発展について知る。</p> <p>⑥ 漆の作品を再び鑑賞する。また、漆器に湯を注ぐなど手で触り、実際に使いながらよさや美しさを考える。</p> <p>⑦ 問いを通して考える。 問い合わせについて考えたことをクラウド上にあげる。</p> <p>1. 漆のよさや魅力はどこにあるのだろうか 前時の考えと比較しながら、漆のよさや美しさ、魅力などについて考える。</p> <p>2. ものの見方が変化することによって、 ものの美しさや価値の感じ方は変わるものか 様々な意見を参照しながら考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 作品についての詳しい説明はせず、生徒自身の感じ方で選ぶように促す。 感じたことを班で伝え合いながら、自他の感じ方や価値を感じる「ものの見方」の違いについて気付くように促す。 鑑賞した作品の中に漆器があることを伝える。 鑑賞の活動を振り返りながら、【題材を通して考えるポイント】を通して考えを深めるように促す。 	1
<p>⑧ クラウド上で共有した意見を参考しながら、前時に考えたことを振り返る。</p> <p>⑨ 問いを通して考える。</p> <p>3. 現代の私たちの生活に漆を生かすとしたら、 どのような場面や作品が考えられるだろう 問い合わせについて4人班で話し合い、全体で参考する。</p> <p>⑩ 新たに学んだことや気付いたことなどについてまとめる。</p> <p>⑪ これからの時代にとって価値があるものとはどのようなものかについても考えをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漆のよさや美しさ、材料の特徴などから、様々な日用品に漆が使われることを想像し、漆の美しさに日常的に触れるこの価値などについて考えを深めるように促す。 日本の伝統的な材料のよさや美しさなどから、これからの文化を創造する担い手として、先人から学ぶことの意味を考えたり、これからの時代につないでいきたいよさや美しさなどについて考えたりしながらまとめるように促す。 	2
		3

6 学びの実現に向けた授業デザイン

【「学びに向かう力」が高まっている生徒の姿】

漆のよさや美しさを感じ取り、様々な感じ方や考え方を知り、考える活動を通して学びを深める姿。美術文化の継承と創造について考え、自分なりの意味や価値を見いだし、自らの価値観の変容を実感し、新たな視点で考えようとしている姿。



【「学びに向かう力」を高めていくための指導と評価の工夫】

○観点別学習状況のあり方

1. 「知識・技能」の指導と評価

本題材では、最初に漆やガラスなどの異なる材料でつくられた作品を比較しながら鑑賞し、それぞれの作品の形や色彩、材料の特性、質感、大きさ、量感などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴を感じ取った後に、改めて漆の歴史等について学び、再度漆を鑑賞する場面を設定する。個人やグループで鑑賞した意見を参考・共有する場面を複数設定し共有しながら、全体のイメージで捉えることを理解できるようにする。同時に、実感を伴いながら理解しているかを活動の様子やワークシートから総括的に評価する。また、「これから私たちの生活に漆を生かすなら…」という問い合わせを通して、漆を自分たちの生活に生かすことができる場面を考えることで、理解を深めるように促していく。

2. 「思考・判断・表現」の指導と評価

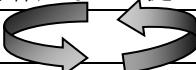
鑑賞の活動では、「どこからそう感じたか」「どのような視点や価値意識を持って鑑賞しているか」など、自分の感じ方や考え方の根拠となる部分を具体的に示したり、他者に分かるように伝え合ったり、言葉で整理したりする活動を繰り返し行うことで、語彙や鑑賞の視点を豊かにしながら、自分の考えをワークシートやPCに記録し可視化していく。可視化した内容を題材の導入時とまとめで比較することで、「ものの見方」や感じ方、考え方の変容を生徒自身が実感できるようにする。また、漆の特性や歴史、制作の工程、諸外国の作品と日本文化との関わりについて概括的に捉え直すことを通して、漆を多面的・多角的に捉えながら日本の美意識を捉えられるようにする。深める場面では、「同じ用途に使う器でも、なぜ材料によって感じ方が変わってくるのか」「漆は現代の日常生活でどのように活用されているのか」といった問い合わせを見いだしながら、漆の魅力と自分の生活との関わりなどについて考えていく。総括的な評価を行う際には、活動の様子から見取ると共に、自分なりの価値や意味をつくりたり、見方や感じ方を深めたりしているかをワークシートの記述などと合わせて評価する。

3. 「主体的に学習に取り組む態度」の指導と評価

学習プランや考えるポイントをスライドで明示し、題材全体の見通しをもって学習に取組めるようにする。第3時には、漆の特性を生かした日用品などについて考えることで、これまでの授業で培ったよさや美しさを感じる見方や感じ方をこれからの自分たちの生活に生かすことに視点を向け、受け継がれてきた表現や美術文化のよさや美しさなどについて考えていく。意見の共有の場面では、自分の意見をわかりやすく伝えようとしたか、他者の意見を認め生かそうとしたかなどについても、授業中の行動や振り返りから評価する。総括的な評価を行う際は、作品のよさや美しさ、美術文化の魅力、生活や社会などの関連をどのように捉えているか、どのように見方や感じ方が変容したかについて整理しながら主体的に学びを振り返る様子を活動やワークシートの記述などから評価する。

【本題材での指導事項】

- ・日本の美術作品や受け継がれてきた表現の特質などから、伝統や文化のよさや美しさを感じ取り愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違点や共通点に気付き、美術を通した国際理解や美術文化の継承と創造について考えるなどして、見方や感じ方を深めること。B鑑賞(1)イ(イ)
- ・形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解すること。【共通事項】(1)ア
- ・造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解すること。【共通事項】(1)イ



【本題材の学習と「学習の基盤となる資質・能力」とのつながり】

- ・作品のよさや美しさを味わいながら、自分が感じたことについて言葉を使って整理したり、漆の魅力や活用の場面などについて発表したりするなどの活動を通して**言語能力の育成**を目指す。
- ・自分の見方や感じ方を大切にしながら、他者の意見や作品についての様々な情報などを活用し、自分の中に新しい意味や価値観をつくりだす鑑賞の活動に導くための**情報活用能力**の育成を目指す。
- ・鑑賞活動の過程で問い合わせや疑問を見いだし、様々な情報や意見を参考に多面的・多角的に考えながら解決のために思考を深める活動を通して、**問題発見・解決能力**の育成を目指す。